

2027年3月期
第1四半期

決算補足 説明資料

8月7日



anicom

アニコム ホールディングス株式会社

証券コード: 8715

全 体 目 次

1 | 第1四半期 決算概要

2 | 重点施策の進捗状況

3 | APPENDIX

1 第1四半期 決算概要

1. 全体サマリー(経常収益・経常利益)
2. 損益計算書 サマリー
3. 経常費用・利益のパラメータ
4. 経常利益の増減要因(対前年同期差分析)
5. 貸借対照表 サマリー



1. 全体サマリー(経常収益・経常利益)



経常収益

21,403 百万円

前年同期比**17.4%増**(3,167百万円増)
うち、保険引受収益は前年同期比**5.9%増**(936百万円増)

のれん償却前 経常利益

3,594 百万円

前年同期比**250.5%増**(2,569百万円増)

経常利益

3,530 百万円

前年同期比**267.5%増**(2,569百万円増)

安定した新規契約獲得と周辺事業の拡大、資産運用収益の増加等により増収増益
経常収益・経常利益共に第1四半期として過去最高

■ 経常収益

- ペット保険の新規契約件数は**6.0万件**、同保有契約件数は**141.1万件**(7.1%増)と**引き続き伸長**
- 保険事業以外の、その他経常収益は**2,436百万円**(16.3%増)と**順調に拡大**
- 資産運用収益は**2,252百万円**(521.8%増)となり、**計画通りに推移**(詳細はP12を参照)

■ 経常利益

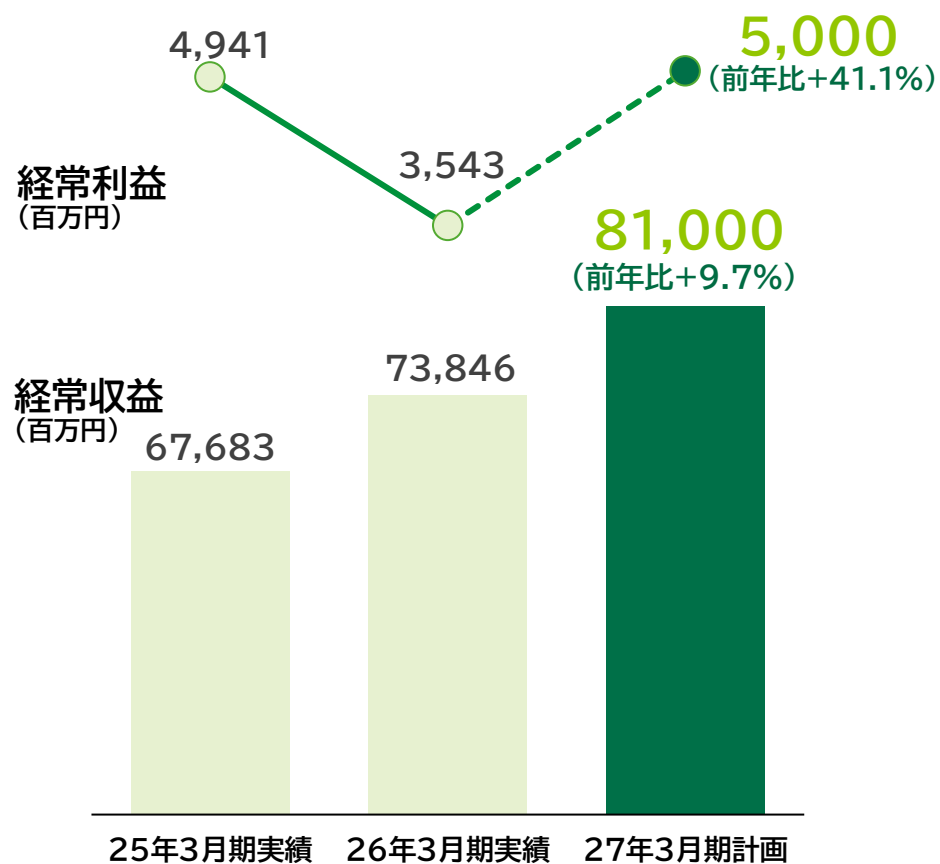
- アクサダイレクト契約移管コストの剥落や、資産運用収益増加により、**大幅増益、対計画も達成ペースの進捗**

1. 全体サマリー(経常収益・経常利益)

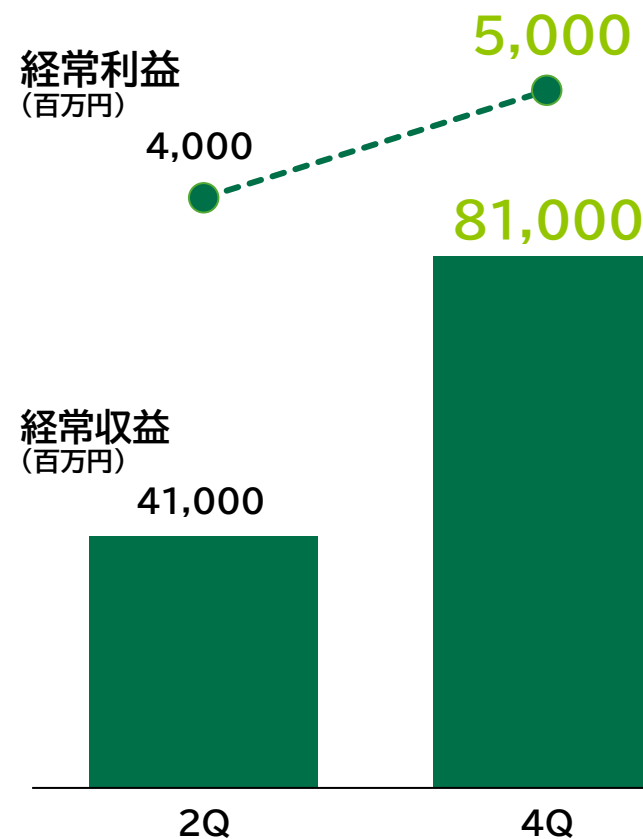


(参考)2027年3月期 損益計画 (年間・半期累計)

年間計画



半期累計計画



2. 損益計算書 サマリー



(百万円)

	26年3月期 1Q	27年3月期 1Q	対前年比 増減率
経常収益	18,235	21,403	17.4 %
保険引受収益	15,778	16,714	5.9 %
資産運用収益	362	2,252	521.8 %
その他経常収益	2,095	2,436	16.3 %
経常費用	17,275	17,873	3.5 %
保険引受費用	11,298	11,561	2.3 %
・正味支払保険金	(8,759)	(9,954)	13.6 %
・損害調査費	(290)	(344)	18.6 %
・諸手数料及び集金費	(1,412)	(1,534)	8.7 %
・支払備金繰入額	(396)	(230)	△ 42.0 %
・責任準備金繰入額	(439)	(△ 502)	— %
(うち未経過保険料)	(711)	(466)	△ 34.5 %
(うち異常危険準備金)	(△ 272)	(△ 968)	— %
資産運用費用	1	310	— %
営業費及び一般管理費	5,224	5,146	△ 1.5 %
その他経常費用	750	855	14.0 %
のれん償却前経常利益	1,025	3,594	250.5 %
経常利益	960	3,530	267.5 %
純利益	650	2,433	274.0 %

※保険業法施行規則に定められた財務諸表の様式において、責任準備金繰入額がマイナスとなった場合、連結経常収益の中に責任準備金戻入額として表記しなければならないところ、本補足説明資料においては、過去との比較参照性の観点から保険引受費用の内訳として表記しています。
よって、決算短信にて開示している連結経常収益21,905百万円と502百万円の差額が生じています。なお、連結経常利益に影響を与えるものではありません。

2. 損益計算書 サマリー

決算概要

進捗状況

APPENDIX



(参考)アニコム損保 保険重要指標

	26年3月期 1Q	27年3月期 1Q	(百万円) 対前年同期比 増減率
既経過保険料	15,134	16,313	7.8%
発生保険金(損害調査費含む)	9,446	10,528	11.5%
E/I損害率①	62.4%	64.5%	2.1pt
既経過保険料ベース事業費率②	35.5%	31.0%	△4.5pt
(内、諸手数料及び集金費率)	(9.8%)	(9.9%)	(0.1pt)
コンバインド・レシオ(既経過保険料ベース)①+②	97.9%	95.5%	△2.4pt

3. 経常費用・利益のパラメータ

※販管費率、経常利益率(連結)

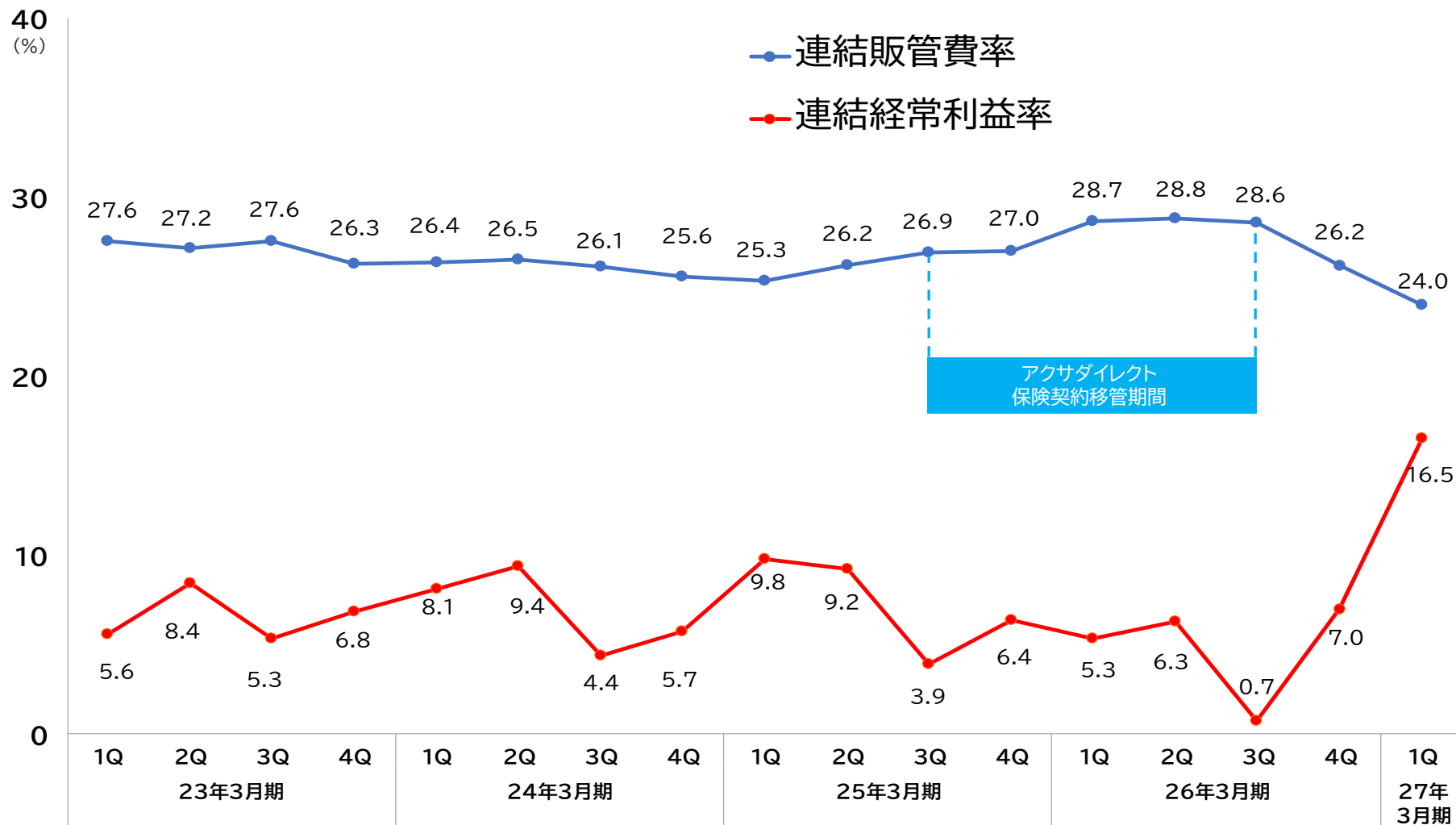
決算概要

進捗状況

APPENDIX



※ アニコム損保単体の経営パラメータ(損害率・事業費率・契約件数)はAPPENDIX参照



4. 経常利益の増減要因(対前年同期差分析)

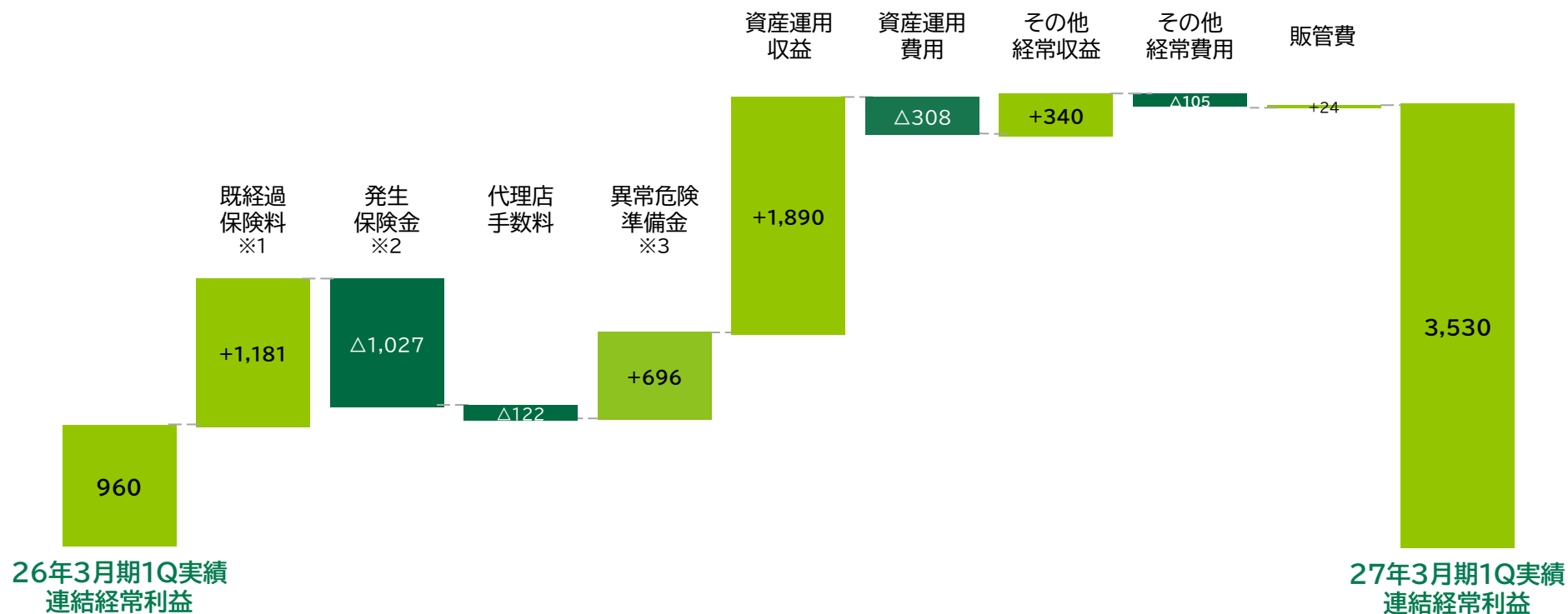


※1 既経過保険料＝保険引受収益－普通責任準備金繰入額(未経過保険料)

※2 発生保険金＝正味支払保険金＋支払備金繰入額

※3 異常危険準備金＝異常危険準備金繰入額＋異常危険準備金戻入額

(百万円)



5. 貸借対照表 サマリー

決算概要

進捗状況

APPENDIX



(百万円)

	26年3月期末	27年3月期 1Q	対前年末比 増減率
資産合計	76,693	75,738	△ 1.2 %
現金及び預貯金	13,392	10,588	△ 20.9 %
有価証券	42,631	43,321	1.6 %
固定資産	10,077	10,690	6.1 %
その他資産	10,592	11,137	5.1 %
負債合計	47,751	46,477	△ 2.7 %
保険契約準備金	29,080	28,808	△ 0.9 %
うち支払備金	4,116	4,346	5.6 %
うち責任準備金	24,964	24,461	△ 2.0 %
社債	5,000	5,000	— %
その他負債	13,670	12,669	△ 7.3 %
うち借入金	5,105	5,103	△ 0.0 %
純資産合計	28,942	29,261	1.1 %
株主資本	30,700	31,984	4.2 %
評価・換算差額等	△ 1,608	△ 2,573	— %
その他	△ 149	△ 149	— %
負債・純資産合計	76,693	75,738	△ 1.2 %

2 重点施策の進捗状況

1. 重点施策の進捗状況（保険事業・資産運用・その他）
2. 重点施策の進捗状況（シナジー創出事業）
3. トピックス



1. 重点施策の進捗状況 保険事業・資産運用・その他



保険事業

新規・保有契約の状況

- 新規契約獲得件数は、四半期単位6.0万件で高水準を維持
- 26年6月末の保有契約件数は141万件を突破

商品・サービスの拡大

- 「どうぶつ健活」の取り組み等が寄与し、継続率は88.3%と安定して高いレベルで推移

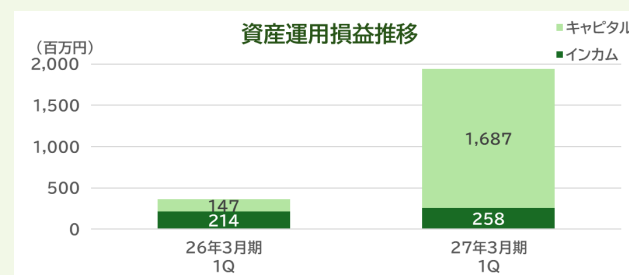
多様な販売チャネル

- 国内生保・損保とのホワイトレーベルの取組み(OEM)を拡大し、8社と提携中

資産運用

市場環境の変化を踏まえた 効率的な資産運用

- インカム収益を着実に積み上げるとともに、市場環境の好転を捉え、株式の売却益を実現
- 市場環境を踏まえ、運用資産のアロケーションを見直し、ポートフォリオの収益性・資本効率を向上させる好機と判断
- 今後も市場環境を見極めながら、キャピタル収益を適切に獲得するとともに、低利回り資産や含み損を抱える資産の入替えを進め、中長期的な運用収益の安定化と資本効率の向上を目指す



その他

「従業員一人一特許戦略」の推進 26年6月末 発明者数163名

【分野別 特許件数】※26年6月末時点(P18に事例を掲載)

	画像認識 AI	遺伝子 フード・ 腸内細菌叢	再生医療	その他	合計
特許 件数	12	12	2	4	30

2. 重点施策の進捗状況 シナジー創出事業①



産まれる前から

川 上



ブリーディングサポートの強化

動愛法順守とブリーディングの業務支援が可能となる仕組みを検討中

マッチングサービス事業の強化

『みんなのブリーダー』 『みんなの子猫ブリーダー』
犬猫累計成約数46万件突破

みんなのブリーダー みんなの子猫ブリーダー

マッチングサービス事業 26年度1Q業績

■売上高 : 580百万円(前年度 596百万円)
■経常利益: 46百万円(前年度 84百万円)

注)売上高は外部売上、経常利益はのれん償却後

主に広告収入が減少。成約単価はやや上昇したものの成約数は横這い傾向。マッチング効率の改善やオフライン集客チャネルの開拓に注力。

日々の暮らし

川 中



健診+口腔・腸内ケア商材の拡販

「どうぶつ健活」を通じた各種ケア商材の
試食会・勉強会を全国拠点にて開催



健康イノベーション事業 26年度1Q業績

■売上高 : 171百万円(前年度 124百万円)
■経常利益: △74百万円(前年度 △61百万円)

注)売上高は外部売上

ECチャネルで着実に定期顧客獲得し、売上が拡大。主力商材の絞り込みにより、販促費をコントロールすることで、効率化に取り組む。

治らないを治す

川 下



動物医療関連 (予防～一般・高度医療)

『JARVISどうぶつ医療センター Tokyo』
地域に根付き、診療件数は堅調に推移



動物病院運営事業 26年度1Q業績

■売上高 : 820百万円(前年度 682百万円)
■経常利益: △191百万円(前年度 60百万円)

注)売上高は外部売上、経常利益はのれん償却後

JARVIS Tokyoにより売上が大幅に伸長する一方、既存病院は閉院および事業縮小。計画通りに進捗。

2. 重点施策の進捗状況 シナジー創出事業②

決算概要

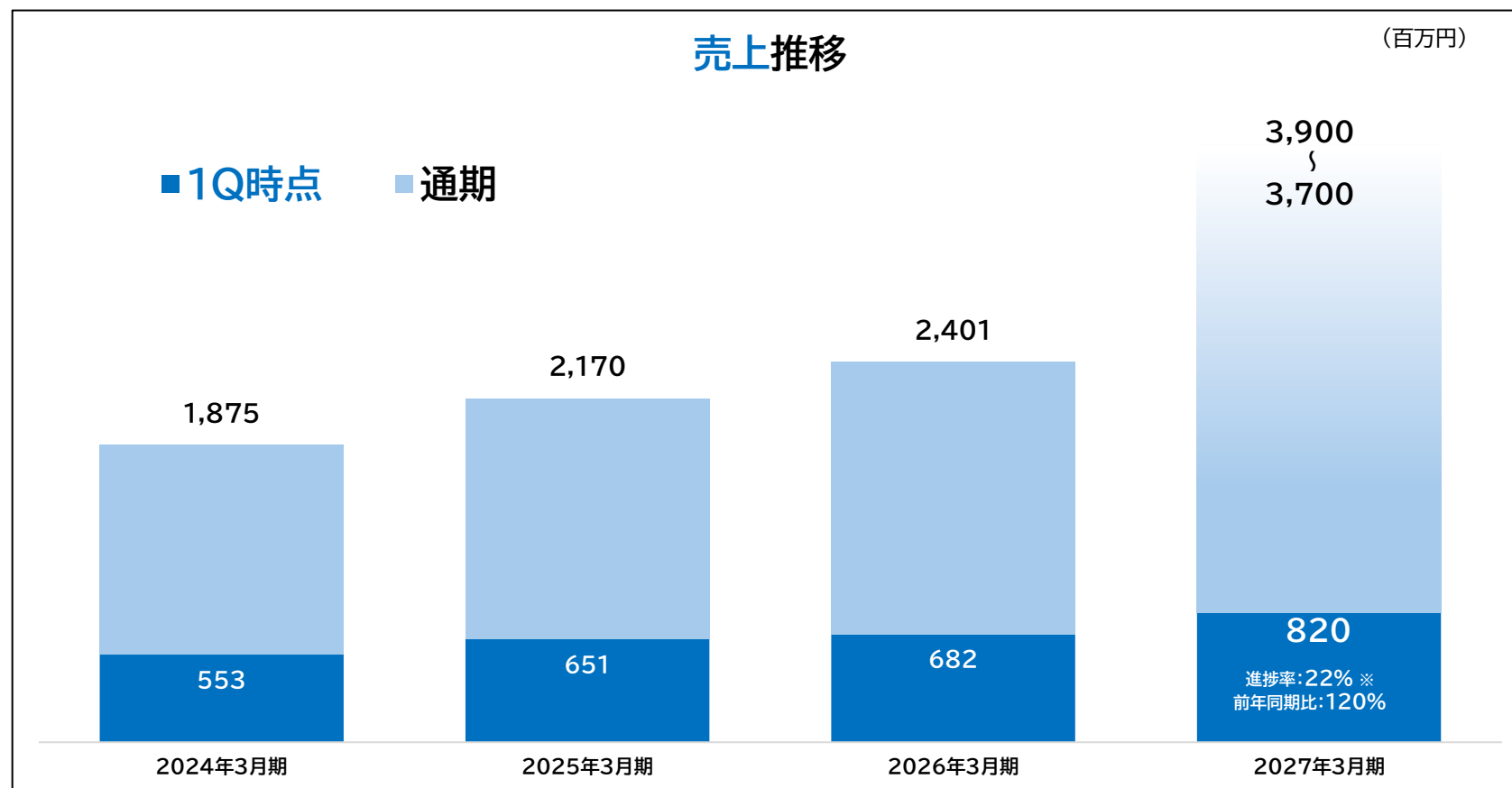
進捗状況

APPENDIX



●動物病院運営事業主要KPI

「JARVIS どうぶつ医療センター Tokyo」が業績成長を牽引し、売上は前年比120%。
症例数の増加および高度医療ニーズの取り込みにより、今後も拡大を見込む。



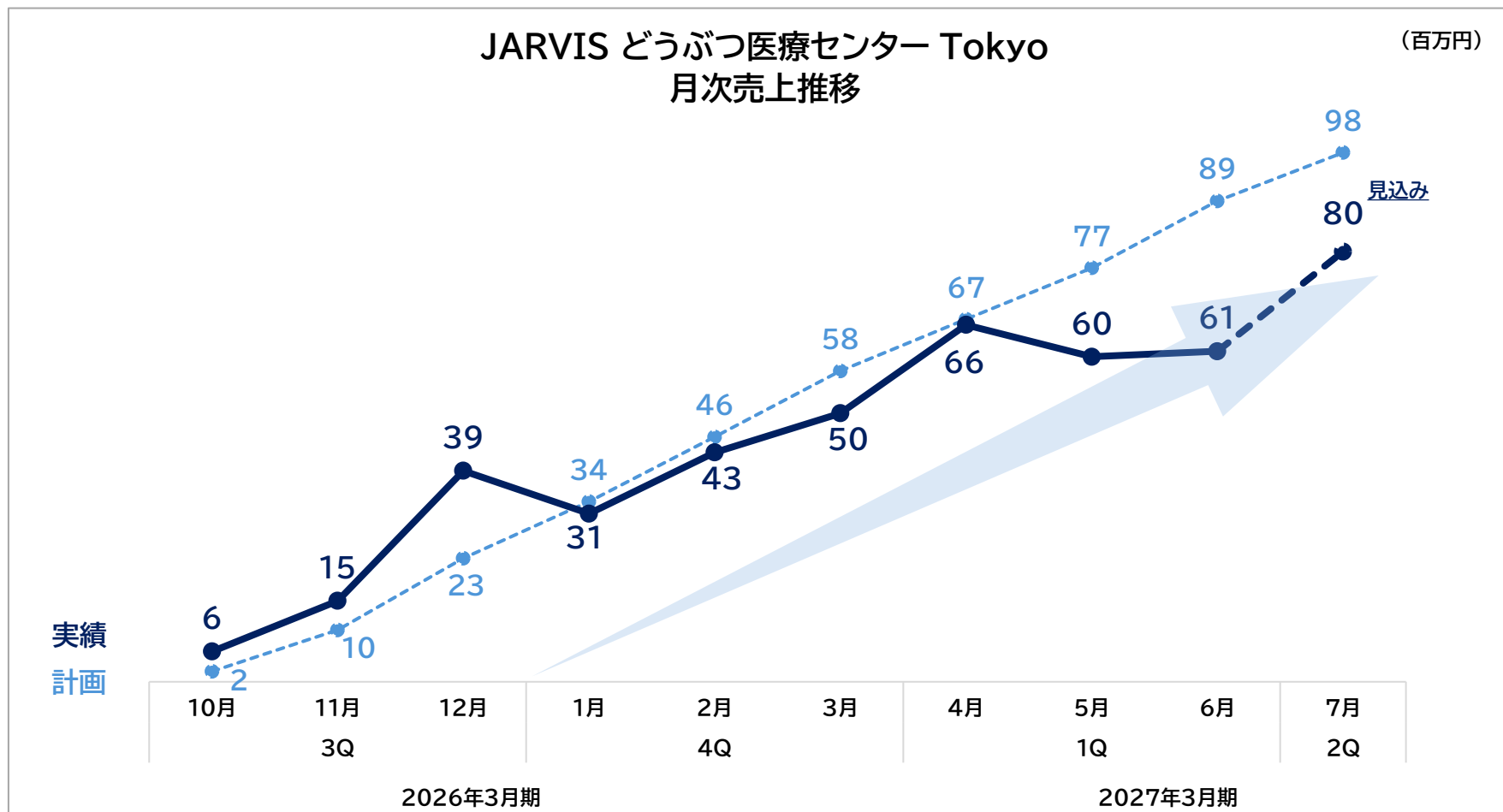
※ 通期の売上見込みを3,800百万円として算出

2. 重点施策の進捗状況 シナジー創出事業③



●JARVIS どうぶつ医療センター Tokyo

売上計画対比ではビハインドするものの、着実な成長基調を維持。7月は約80百万円を見込む。



3. トピックス① 「予防型保険会社」としての分析・啓発



犬・猫の「熱中症週間予報」を開始

2026年もSNS等を通じて、「熱中症週間予報」の配信を開始した。犬は2013年から・猫は2022年から継続しており、飼い主さまの適切な対策により“防げる病気”である熱中症の予防を目指している。また、保険金請求データの分析結果を公開。初めて犬・猫を迎えた家庭や、前年に熱中症経験のある場合は、熱中症リスクが高い傾向が明らかになった。

4月24日付ニュースリリース

▶<https://www.anicom-sompo.co.jp/news-release/2026/20260424/>

犬の熱中症週間予報



猫の熱中症週間予報

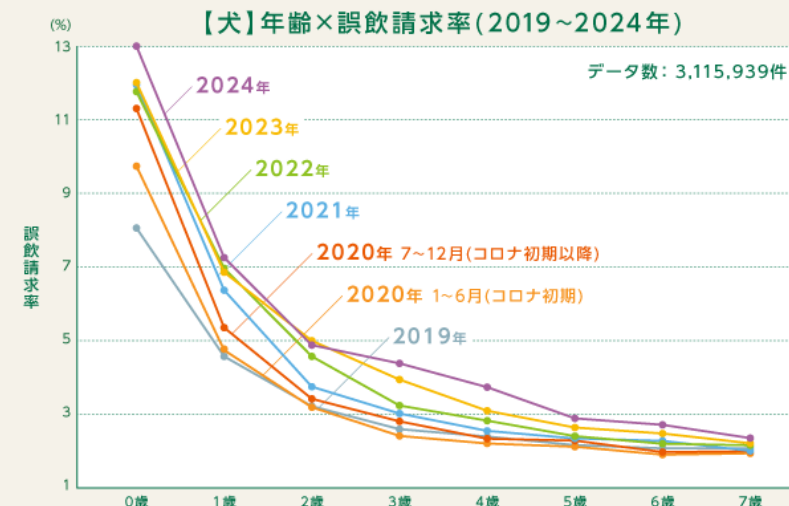


犬・猫の誤飲事故を分析

保険金請求データをもとに、犬・猫の誤飲事故を分析。その結果、犬・猫ともに0～2歳で誤飲事故が多く、特に初めて犬・猫を迎えた家庭や、過去に誤飲経験のある場合は、誤飲リスクが高い傾向が確認された。飼い主さまが生活環境を整えることや、日ごろから犬・猫を十分に運動させてあげることなどで、誤飲事故の予防につながることを伝えている。

5月28日付ニュースリリース

▶<https://www.anicom-sompo.co.jp/news-release/2026/20260528/>





愛犬用おやつ「7Days Food Puree」発売予定

アリアケジャパン株式会社との共同開発により、アニコムグループが展開する食ブランドの新シリーズ「7Days Food Puree」を発売予定。アニコムグループの健康知見とアリアケジャパン株式会社の食技術を融合し、素材のおいしさを生かしたうまみバイオン仕立ての愛犬用おやつを開発。日々の食事にトッピングしやすいスティック形状を採用し、7種類のたんぱく源をローテーションして楽しめる設計とした。毎日違ったたんぱく源をおいしく摂取しながら、愛犬の毎日の食事を健康的にサポートする。

8月7日付ニュースリリース

▶<https://www.anicom-pafe.com/tands/tands.20260807.html>



※本商品は開発中のため、商品仕様・デザイン等は変更となる場合があります。

「健康の知見」

- ・保険と予防の両面から蓄積した健康知見を活用し、食を通じてどうぶつの免疫を育む取り組み
- ・どうぶつとの暮らし全体を支援するグループ横断のサービス基盤

anicom

「食の技術」

- ・60年にわたり培った天然だし抽出技術
- ・天然素材のおいしさを引き出す設計力・調味力
- ・一貫生産・FSSC/HACCPに基づく品質体制

 アリアケジャパン株式会社

食と健康の接点に新たな価値を
愛犬・愛猫の健やかな毎日に寄り添う新シリーズを展開予定

3. トピックス③ どうぶつさんとの暮らしを彩る取り組み



「動物の飼育方法」の特許取得

DENBA JAPAN株式会社と「動物の飼育方法」に関し、共同特許を取得した。本特許は、DENBA JAPAN株式会社が有する空間電位技術を動物の飼育環境に応用するというもの。得られた研究成果は、動物の飼育環境における新たな可能性として、今後の研究の発展にもつながる成果となった。



4月17日付ニュースリリース

▶<https://www.anicom.co.jp/news-release/2026/20260417/>

第11回「どうぶつ川柳」を開催

毎年どうぶつさんへの愛が込められた川柳が集う、「どうぶつ川柳」を2026年も開催。今年からは従来の専用応募フォームに加え、SNS投稿でも応募が可能となり、多くの川柳が集まった。



6月1日付ニュースリリース

▶<https://www.anicom-sompo.co.jp/news-release/2026/20260601/>

3. トピックス④ 研究領域での成果

決算概要

進捗状況

APPENDIX



北海道の野生エゾシカでゲノム配列を解読

アニコム先進医療研究所株式会社は、国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所、麻布大学との共同研究グループにて、北海道の野生エゾシカの高品質なゲノム情報を公開し、エゾシカの進化や遺伝的多様性、生態・資源管理に活用できる研究基盤を構築した。



4月17日付ニュースリリース

▶<https://www.anicom-med.co.jp/news/20260417.html>

猫の「隠れ折れ耳」現象を確認

アニコム先進医療研究所株式会社は、アニコム パフェ株式会社、麻布大学との共同研究にて、一部のスコティッシュ・フォールドには「隠れ折れ耳」が存在することを確認した。また、遺伝性疾患リスクの把握・管理や動物福祉の向上のため、遺伝子検査の重要性を示した。



折れ耳

立ち耳

立ち耳化現象が見られたもちゃん

6月1日付ニュースリリース

▶<https://www.anicom-med.co.jp/news/20260601.html>

加齢・品種差による歯周病リスクを解明

保険金請求データの分析により、犬・猫の歯周病リスクは加齢だけでなく、品種によってもリスクの現れ方が異なることを明らかにし、若齢期からの予防やケアの重要性を示した。



5月12日付ニュースリリース

▶<https://www.anicom-sompo.co.jp/news-release/2026/20260512/>

猫の骨軟骨異形成リスクの低下を発表

アニコム先進医療研究所株式会社は、アニコム パフェ株式会社、麻布大学との共同研究にて、スコティッシュ・フォールドなどの骨軟骨異形成に関連する、重症リスクの高い遺伝子変異の型が減少していることを発表した。



※本図のデータは2017年～2024年に生まれた国内の猫を対象とした解析結果です。

6月8日付ニュースリリース

▶https://www.anicom-pafe.com/tands/tands_20260608.html

3. トピックス⑤ 「JARVIS Tokyo」の展開



4月に「ペットホテル JARVIS Tokyo」がオープン

東京都港区に「ペットホテル JARVIS Tokyo」をオープンした。高度・救急医療施設「JARVIS どうぶつ医療センター Tokyo」と併設しており、飼い主さまが安心して愛犬を預けられる施設として、環境を整えている。

4月3日付ニュースリリース

▶<https://www.anicom-sompo.co.jp/news-release/2026/20260403/>



「ペットホテル JARVIS Tokyo」室内ドッグランを一般開放

「ペットホテル JARVIS Tokyo」に併設する、室内ドッグランの一般開放を始めた。約65㎡と広々と開放感のある空間で、天候に左右されず、愛犬とのふれあいを楽しむことができる。

6月12日付ニュースリリース

▶<https://www.anicom-sompo.co.jp/news-release/2026/20260612/>



ペット同伴可能の株主総会を「JARVIS Tokyo」にて開催

「JARVIS Tokyo」(アニコムビル)で株主総会を開催した。当日は施設見学会や手術支援ロボットの操作体験などを実施し、当社の「予防型保険」の実現に向けた取り組みや、保険と医療が連携する現場をご覧いただいた。また、当社らしい株主総会の実現に向けて、初めて「ペット同伴可能の株主総会」として開催。株主さまと参加するワンちゃんの姿も見受けられた。





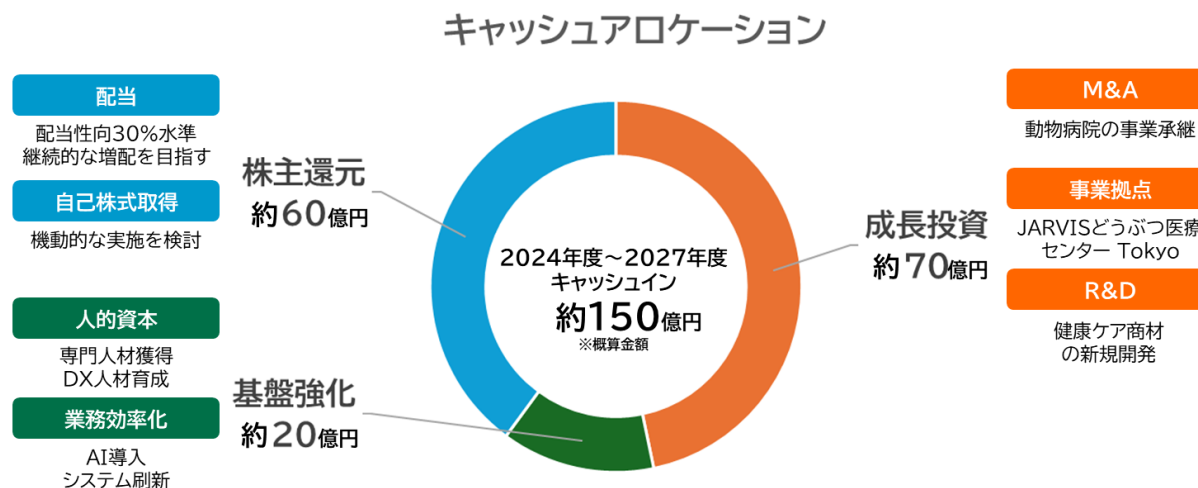
自己株式の取得状況

■ 概要

- ・ 2026年5月12日、10億円を上限とする自己株式取得の実施を決定
- ・ 2026年6月1日～2026年7月31日の期間で取得予定
- ・ **2026年6月末時点で、約4.8億円を取得済**（2026年7月27日 約10億円の取得を終了）

■ 中期経営計画 資本政策方針

ESR※を適正水準に保ちつつ、『成長投資』、『基盤強化』、『株主還元』の最適なバランスを目指す



※ 26年3月期末時点で217.7%であり、「保険金等の支払能力の充実の状況が適当である」とされる100%を上回っております。

3 | APPENDIX

1. 主要経営パラメータ

2. アニコム損保単体：経常収益のパラメータ (ペット保険新規契約獲得件数／保有契約件数の推移)

3. アニコム損保単体：経常費用のパラメータ (損害率(E/I)、既経過保険料ベース事業費率)



1. 主要経営パラメータ



	26年3月期 1Q	26年3月期末	27年3月期 1Q	対前年同期比		対前期末比		27年3月期末 (予想)
				件数	率	件数	率	
① 保有契約数	1,318,043 件	1,392,772 件	1,411,711 件	93,668 件	7.1 %	18,939 件	1.4 %	1,470,000 件
② 新規契約数	69,815 件 (内アクサ移管分 約8,000件含む)	266,231 件 (内アクサ移管分 約22,000件含む)	60,125 件	▲9,690 件	▲13.9 %	-	-	260,000 件
③ 継続率	88.3 %	88.5 %	88.3 %	-	-	-	-	88.6 %
④ 保険金支払件数	1,161 千件	4,872 千件	1,263 千件	102 千件	8.8 %	-	-	5,155 千件

	26年3月期 1Q	27年3月期 1Q	対前年同期比 増減	27年3月期末 (予想)
⑤ E/I損害率	62.4 %	64.5 %	2.1 pt	63.4 %
⑥ 既経過保険料ベース事業費率	35.5 %	31.0 %	▲4.5 pt	31.6 %
⑦ コンバインド・レシオ(既経過保険料ベース)	97.9 %	95.5 %	▲2.4 pt	95.0 %

	26年3月期 1Q	27年3月期 1Q	対前年同期比 増減
⑧ どうぶつ健活(腸内細菌叢検査)申込数	62,968 件	62,985 件	0.0 %
⑨ 対応動物病院数	6,995 病院	7,057 病院	0.9 %

【参考】

	26年3月期末	27年3月期 1Q	対前期末比 増減
単体ソルベンシー・マージン比率	260.9 %	-	-
連結ソルベンシー・マージン比率	217.7 %	-	-

※ 新たな経済価値ベースのソルベンシー規制(ESR)への移行に伴い、26年3月期末の数値を参考として記載しております。

2. アニコム損保単体:経常収益のパラメータ

決算概要

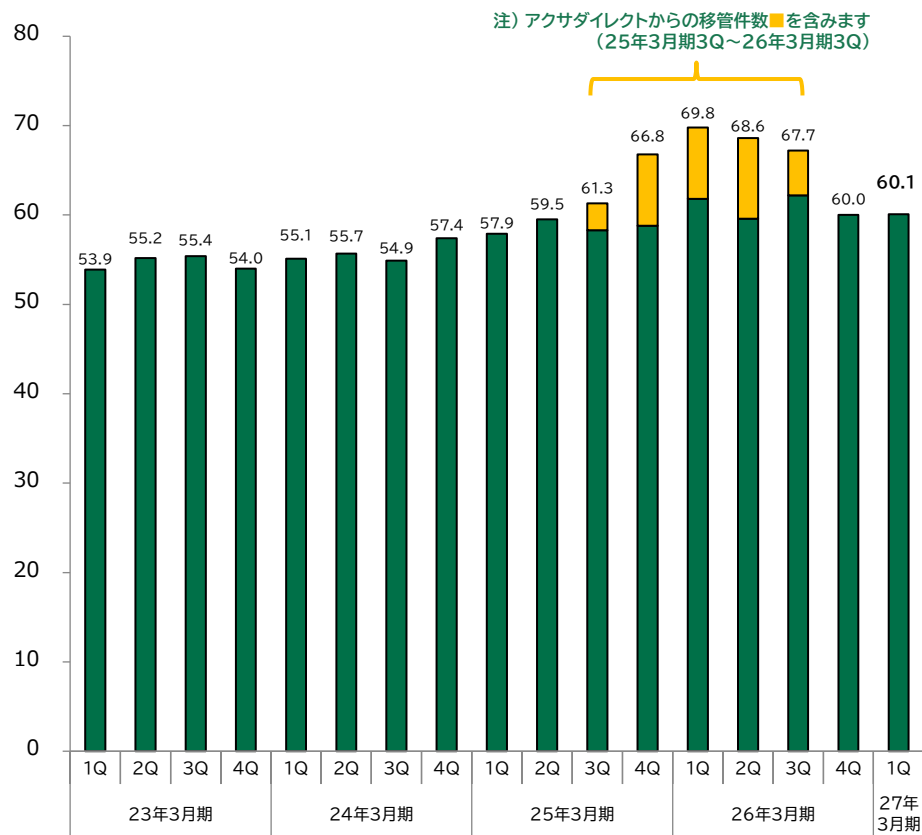
進捗状況

APPENDIX



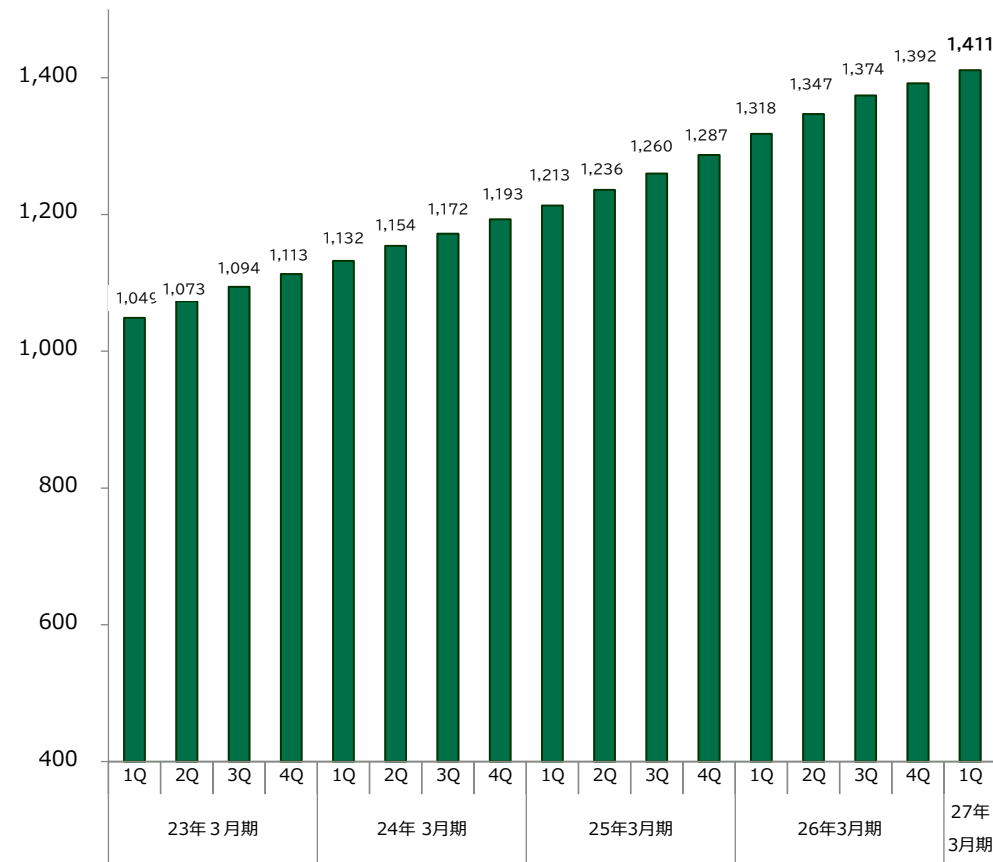
新規契約獲得件数の四半期推移

(千件)



保有契約件数の四半期推移

(千件)



3. アニコム損保単体:経常費用のパラメータ



【参考情報】

15年3月期 1Q

■ 保険料改定
・平均12%の改定

15年3月期 3Q

■ 限度日数付き新商品
■ 健康割増引制度導入

18年3月期 2Q

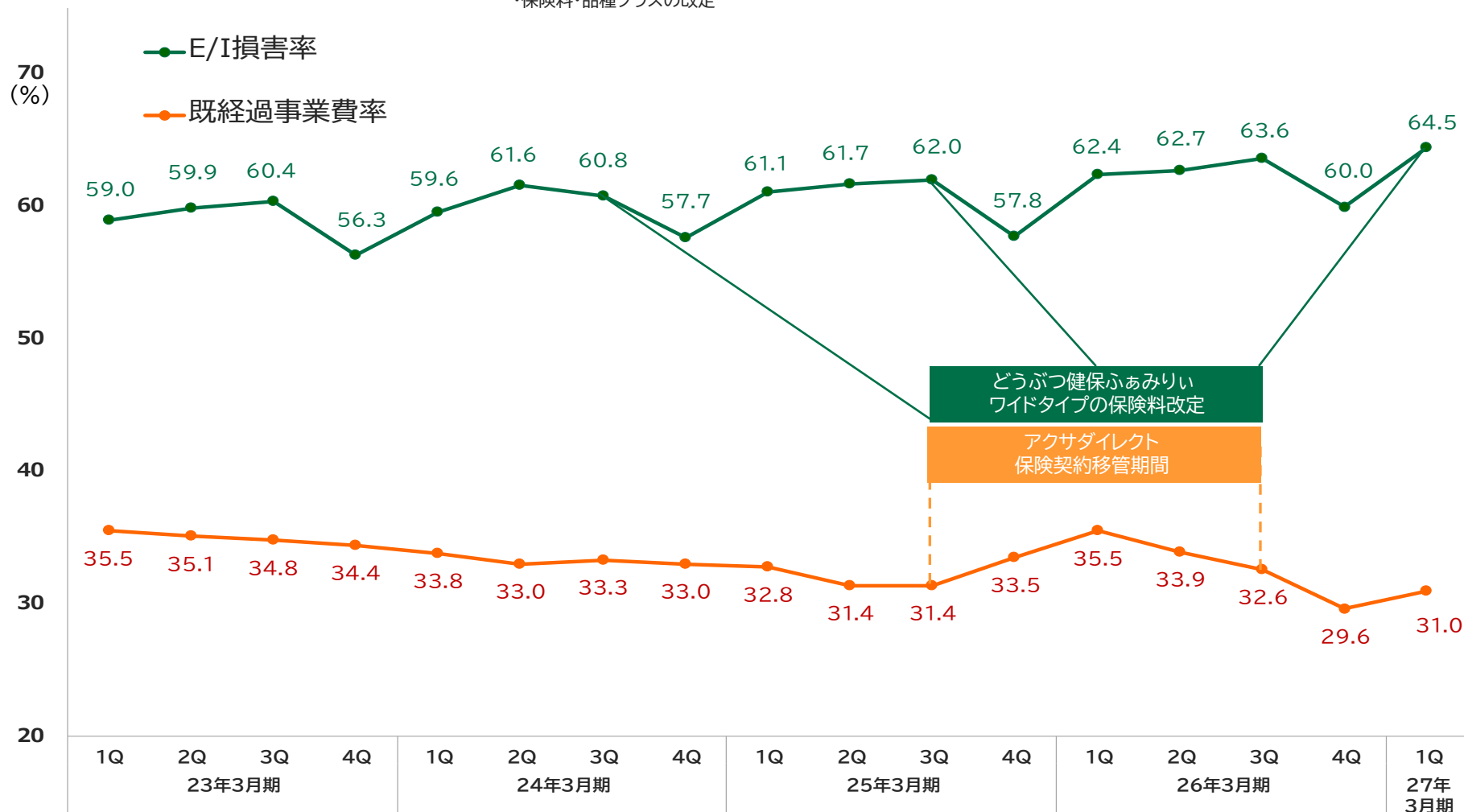
■ 保険料率改定
・8歳以上の保険料改定

19年3月期 3Q

■ 「どうぶつ健活」の導入
■ 保険料改定
・保険料・品種クラスの改定

注1) 下表は、四半期毎の平均値を記載しておりますので、当期累計平均とは異なります。

注2) 事業費率は「既経過保険料ベース事業費率」(損保事業費÷既経過保険料)を表しております。

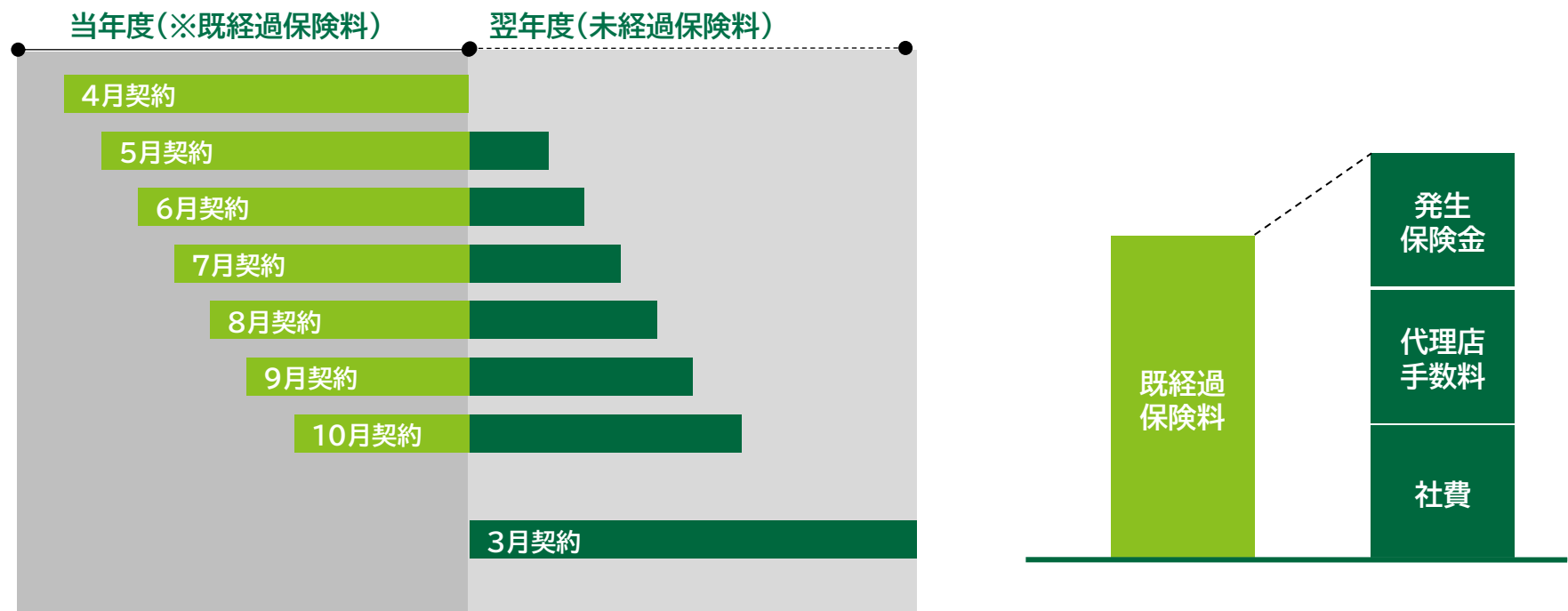


(参考) 保険会計が経常損益に与える影響



1. 保険料の増加が経常損益に与える影響(日本の損保会計ベース)

一般的に、保険料の増加は経常収益の増加に寄与しますが、事業年度における保険料の未経過期間部分については、普通責任準備金(未経過保険料)として次年度に繰り越すことが法令により定められています。一方で、発生保険金、代理店手数料、社費等の費用については、保険料の増加に対応する費用を含め、これらの費用が発生する年度において計上することとされています。したがって、保険料の増加に伴い増収となる場合であっても、当該費用が既経過保険料を超過する場合は、当該年度の経常損益にマイナスの影響を与えることとなります。



2. 異常危険準備金が経常損益に与える影響(日本の損保会計ベース)

- ・異常危険準備金は、巨大災害等が生じた場合の保険金の支払いに備えるために法令により積み立てておくこととされているものであり、各保険会社が毎期積み立てを行っているものです。
- ・異常危険準備金は、正味損害率(※)が50%を超えると取崩し(費用のマイナス)が行われます。(※)正味支払保険金を正味収入保険料で除した割合です。



お問合せ先

アニコム ホールディングス株式会社 経営企画部 (IR事務局)

東京都新宿区西新宿8-17-1 住友不動産新宿グランドタワー39階

www.anicom.co.jp

本資料に関する注意事項

本資料は、現在当社が入手している情報に基づいて、当社が本資料の作成時点において行った予測等を基に記載しておりますため、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。

これらの記述は将来の業績を保証するものではなく、一定のリスクや不確実性を内包しております。そのため、将来の実績が本資料に記載された見通しや予測と大きく異なる可能性がある点をご承知おきください。従いまして、将来予想に関する記述に依拠することのないようにご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。

なお、本資料は情報提供のみを目的としたものであり当社が発行する有価証券への投資の勧誘・募集を目的としたものではありません。